

岳景

転出者の挨拶

この季節がやってくる

帯広市立八千代中学校

学び つながり 切り拓く

令和7年3月24日(月) No.11 校長 嘉藤 貴充



水谷 由美（清水町内の学校へ）



卒業式の前日は、クラスみんなと体育館を走り回ったり、一緒にお好み焼きを作ったりしたことはよい思い出です。修学旅行では、浅草寺で外国の方に帯広の魅力を伝えたり、帯広市街で企業アンケート調査を行った後、スイーツ探索を楽しんだり、貴重な経験をすることができました。また、生徒たちが企画した JICA 研修員との交流では、工夫を凝らした「おもてなし」を考え、毎回充実した時間を過ごしました。さらに、保護者の皆様にご協力いただいた「持続可能な農業」の学習では、実際に教室で保護者の方が農業経営への戦略や誇りを熱く語っていただきました。そのときの子どもたちが親を見るまなざしは、今でも忘れられません。学校は、子どもたちとともに成長し、新しい経験ができる素晴らしい場所なのだと改めて実感しています。八千代中学校や広野小学校の子どもたち、そして温かく支えてくださった保護者の皆様に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

石原 宏希（帯広市内の学校へ）



令和2年4月に着任しました。その当時はちょうど COVID-19 の流行があり、すぐに学校が休みになりました。初めてのことで、学校の中も手探り状態の日々がつづきました。それでも、八千代の中学生はたくましくコロナを乗り越え成長する姿があり、大自然の中で育ってきた人たちは、小さなことに動じないところがあると感心しました。4月からは、八千代中学校で学んだことを活かせるよう努めたいと思います。5年間、本当にありがとうございました。

菅蒲 一義（帯広市内の学校へ）

このたびの異動により、八千代中学校を離れることになりました。令和4年4月に着任してから3年間、皆さんとともに過ごした日々は、私にとってかけがえのない宝物です。授業や行事を通して、生徒の皆さんの成長を間近で見守ることができたこと、そして保護者や八広地域の皆様方に支えられながら過ごせたことに、心から感謝しています。次の赴任地でも、この経験を活かしながら精一杯努めてまいります。これからも皆さんの活躍を心より応援しています。本当にありがとうございました。





田中 宏行（退職）

令和元年4月から着任してから6年間、そして平成25年から4年間、合せて10年間八千代中学校へ勤務させていただきました。毎朝通勤時はポロシリ岳・日高幌尻岳・戸蔭別岳等見ながら四季を感じ、そして学校ではソフトテニス部で部員たちと係わり、たくさんの感動をもらいました。数々の全道大会、全国大会4回（3回目の長崎大会は応援）部員たちの頑張りによって一緒に飛行機に搭乗し、現地で貴重な時間を過ごすことができました。部員達には感謝しかありません。それを支えてくれた保護者の皆さん、PTAの皆さん、そして地域の皆さんにご協力いただいたことにお礼申し上げます。

4月からは退職し無職となりますがしばらくは休み、機会があればボケ防止のため、体頭を遣うようなことに就きたいと思っています。本当にお世話になりました。

嘉藤 貴充（清水町内の学校へ）

地域の七五三縄づくりに参加させていただき、八広の地とがっちりご縁が結ばれたと信じておりましたが、この春をもって異動となりました（びっくり！）。2年間、毎日ポロシリを拝み、その姿に励まされ、八広の子どもたちから元気をもらい、楽しく過ごすことができました。今まで赴任してきた地ではそれぞれの思い出ができるのですが、新米校長として赴任し、ここ八広で過ごした2年間は格別のものとなりました。

ジョギングで走った早朝の西1線、夜中に聞こえる渡り鳥の鳴き声、見上げればかっこいい日高の山並み・星月夜。登ればしびれる沢と谷。そして何より、顔と顔、心と心が通いあう八広の子どもたち。テニスの外部指導者をはじめ、町内会やCSなど保護者以外の方々にも大変お世話になりました。楽しく過ごせた2年間。この場をお借りし、皆々様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



令和6年度 最後の『岳景』
ポロシリと稜線でつながる
エサオマントッタベツ岳

